
花売り

ぼろろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花売り

【Nコード】

N2145B

【作者名】

ぼろろ

【あらすじ】

僕は今日も花を売る。綺麗な花を売って得た汚いモノ。

僕は花売りを始めた。

そんな僕に

「花売りなんておまえには向いてないよ」

と、友人は言った。

でも…僕にはもうそれ以外の道なんて残されていなかったんだ。

花売りの仕事は業者から花を仕入れることで始まる。できるだけ綺麗な傷のない花を仕入れなければならない。汚いものや傷の付いたものの中から綺麗なものだけを選ぶ。傷があっても加工すればつかえそうな物も仕入れた方が良い。綺麗な物ほどではないにしろ、これも売れる。

仕入れをしたら次は加工するものを加工する。

この作業が僕は一番嫌いだ。

使える部分だけを綺麗に切り分けてフリーズさせるのだけれど手に花の液体の臭いがつくし何より花がかわいそうだ。花なんかは情けを掛けてはいけない。そんな事わかってはいるんだけど、花は加工する時に泣いて嫌がるからどうしても可哀想だと思ってしまう。次に加工したモノと綺麗なモノを丁寧に店頭に並べて客を待つ。あとは売れるのを待つだけ。

僕の店の売り上げはなかなかだった。

花が売れていくときに僕は願うのだ。

幸せになれよ、と願うのだ。

長く生きるよ、と願うのだ。

でも一ヶ月もたたないうちに同じ客が違う花を買いにくる。前の花について訪ねると決まってる

「枯れた」

という答えが帰ってきた。

「だから言っただろ」

金は手に入れたが日に日に憔悴していく僕に友人は言った。

「こんな事ならまだ花になった方がマシだったよ」

「でもやめられないんだろ？」

僕は小さくうなずいた。

「人身売買になんて手を出すんじゃないよ」

(後書き)

花^{||}人。

解りにくかったらすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2145b/>

花売り

2011年1月16日09時16分発行